

周辺地域のまちづくり活動

みんなで歩いて作る防災マップ

大野田地域防災会では、10月22日(祝)雨天の中「みんなで作ろう防災マップ」ということで、北町五丁目町会、緑町三丁目町会、大野田小学校PTA、第四中学校PTAの合わせて33名の参加で、地域内タウンウォッチングを実施しました。緑町コミュニティセンターを起点に各地区1時間かけて、消火器・AED・消火栓・防火水槽などを確認し、地区ごとに防災マップを作成しました。

子どもも大人も協力してまちをきれいに

武蔵野市では11月末の日曜に毎年市内一斉清掃を実施しています。今年も11月24日(日)午前9時、各地区一斉に清掃活動が行われます。

クリーンセンター周辺の運営協議会に参加する団体



タウンウォッチング出発前に打ち合わせている参加者。

も、それぞれ独自の形で参加しています。

武蔵野パークタウンでは、「クリーンデー」と称して団地内一斉清掃を実施し、同時に安否確認訓練・炊き出し訓練を行った後にきのこ汁がふるまわれます。

緑町三丁目町会では、緑町ふれあい公園、3丁目地域、千川上水にかけて歩道中心に清掃活動を行い、終了後に子供たちに町会からお土産が配布されます。

北町五丁目町会では、大野田小学校PTA 地区委員会と一緒に千川上水歩道の清掃活動を行います。

みんなで協力して、楽しく地域をきれいにしましょう。お父さん、お母さん、子どもたち、みなさん奮って参加しましょう！

今年エコマルシェと同時開催 運営協議会のイベント 地域で学ぶ、遊ぶ、つながる

日時：12月1日(日)

エコマルシェは10時～3時

場所/クリーンセンター2階見学者ホール

運営協議会は、周辺地域住民の安心・安全のため、クリーンセンターを見守る監視役として活動しています。多くの方に協議会の活動を知ってもらい、また若い人から年配者まで、行事を通して環境を学べるように、そして来場者が交流できるように、毎年工夫をこらしてイベントを開いています。

今年も地域ならではの内容をそろえ、クリーンセンターのエコマルシェと同時開催することになりました。ぜひ、お問い合わせしてお越しください。



運営協議会イベント スケジュール

12:30.....

●野菜の販売 新鮮な地元野菜の直売

13:00.....

●市立第四中学校吹奏楽部のミニコンサート

生徒たちによる生演奏をお楽しみください。

13:30.....

●講演会「プラスチックリサイクル」について

講師/鈴木雅夫氏(プラスチック循環利用協会)

現在世界中でプラスチックごみは、環境面で大きな問題になっています。市民にとってできることは何か、プラスチックについて知識を学び、再利用など普段の生活に積極的に取り入れていきましょう。

編集・発行/武蔵野クリーンセンター運営協議会
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5
武蔵野クリーンセンター内
電話：0422-54-1221
●武蔵野市ホームページ
<http://www.city.musashino.lg.jp/>

*この広報は、再生紙を使用しています。

武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 74

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された周辺3地域4団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。



CONTENTS

- P 1...地域で環境学習 バス研修会
宮ヶ瀬ダムと相模原市立博物館
- P 3...エコプラザ開設に向けて一周辺住民の想い
クリーンセンター Q&A
不燃・粗大ごみ処理施設の火災事故対策
- P 4...周辺地域のまちづくり活動
運営協議会のイベント情報

地域で環境学習 バス研修会 宮ヶ瀬ダムと相模原市立博物館

10月6日(日)、武蔵野クリーンセンター運営協議会主催のバス研修会^{注1}が開催され、参加者63名は宮ヶ瀬ダム・水とエネルギー館、そして相模原市立博物館に向かいました。

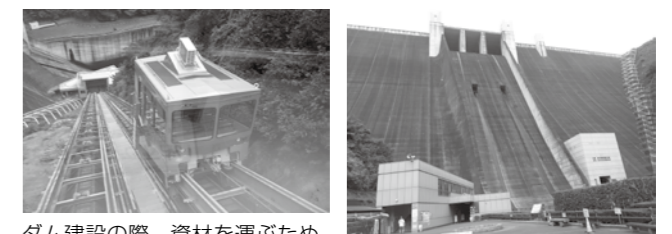
朝クリーンセンターに集合した時には、雨がかなり降っていましたが、宮ヶ瀬ダムに着いた頃には雨が上がり、無事に見学ができました。

水とエネルギー館で「洪水を防ぐ」などのダムの役割について学んでから、ダムの下まで降りてその大きさを実感しました。次に訪れた相模原市立博物館のプラネタリウムで、秋の星座、相模原の暮らしや歴史・自然について学ぶことができました。

注1：武蔵野クリーンセンター運営協議会は、周辺地域4団体を対象に、バス研修会を年1回行っています。



宮ヶ瀬ダムによりできたダム湖、宮ヶ瀬湖。景観が美しい。



ダム建設の際、資材を運ぶために設置されたインクライン。宮ヶ瀬ダムを底から望む。毎年行われる落差70mの観光放流は大人気。

宮ヶ瀬ダム・水とエネルギー館

宮ヶ瀬ダム・水とエネルギー館は、ダムと人々のかかわりや、水資源の利用と保全の必要性・重要性をさまざまな展示物で体験しながら学習できる場です。

宮ヶ瀬ダムは、神奈川県相模原市・相川町・清川村にまたがるダムです。宮ヶ瀬ダムについて、「水とエネルギー館」で次のような説明を受けました。

- 形式は、「重力式コンクリートダム」。
- 高さは、156m。日本で6番目の大きさのダムです。(一番はやはり黒部ダム)
- 長さは375m。
- 一番下は180mのコンクリートの厚さがあります。
- 総貯水量は1億9300m³。

近くの原石山から資材を運び、コンクリート工場をすぐそばに建設してインクラインでコンクリートを運び、3年の工事で平成10年に完成しました。

ダム建設のために281世帯が移転

川の流域の281世帯1,136名の方が高台への移転に協力して、ダムをつくることができました。また、ダムができたことで、昔「唐人河原」と呼んで外国人の避暑地としてにぎわった河原もダム湖の下になりました。宮ヶ瀬ダムの特徴は、導水路を使って道志川から水を入れたり、津久井湖に流したりと連携して水の総合運用を図っていることです。

編集後記 今年大きな台風が列島を襲いました。15号は千葉県に大きな被害をもたらし、大型の19号は東海から東北まで避難勧告が出され、停電、断水・川の氾濫・家屋の浸水など大きな被害がでました。気候変動の大きさとまどいながら、地球規模の環境問題に関心をもちたいです。(興信子)

ダム役割とは？

ダムは次の4つの役割があることを学びました。

①台風や大雨による洪水を防ぐ

ここ数年豪雨による洪水の被害が発生しています。昨年9月末の雨台風のときには、事前に放流し大雨に備えて洪水を防ぐことができました。しかしダムがあるにもかかわらず、最近の大雨では抱えきれずに洪水になる心配が出てきています。

②川の環境を正常に保つ

農業用灌漑用水が必要です。川には生き物もいます。

③水道用水を貯める

横浜や川崎など大都市の水道用水となっています。

相模原市立博物館

次の見学地、相模原市立博物館のロビーには小惑星探査機「はやぶさ」の展示もあり、神奈川県で一番の直径23mのドームでプラネタリウムを鑑賞できます。10月の星空にはどのような星が見えるか、星座についての物語も含めた説明がありました。その一部を紹介します。

まず土星。中心には固体成分を占める核がありますが、主要成分がガスであり外縁の境界が不明瞭なため巨大ガス惑星に分類されます。

次に木星。太陽系にある惑星の1つで、質量ともに最大の惑星です。

星座については、「ペガスス座」^{注2}は翼が生えた天馬の姿を表しており、秋の大四辺形を形作る大きな星座です。「カシオペア座」は、5つの星がWの形に並んでいます。明るく見つけやすい星座です。「アンドロメダ座」は、ペガスス座と並ぶ大きな星座で、「秋の大四辺形」^{注3}の一部です。

注2：ペガスス座 (Pegasus) 一般には英語読みのペガススで知られ、ペガスス座と呼ばれるが、正式な星座名はラテン語読みのペガスス座という。

④電気をつくる

水力発電所によって25,400KW、29,000戸分の電気をつくります。

宮ヶ瀬ダムの特徴や役割を学んだあと、35度の急傾斜をインクラインに乗ってダムの下まで降りてみました。また、エレベーターでダムの上までのぼり、広いダム湖を眺め、宮ヶ瀬ダムの大きさを実感しました。ダムの見学は初めてという方もいて、湖と空と山々など雄大な眺めを堪能しました。

星座の物語

王ケフェウスと王妃カシオペアの間に生まれた美しい王女アンドロメダ。エチオピア沿岸で暴れる化け鯨(くじら)ティアマトの災害から国を守るため、アンドロメダは生け贄になることに。それを救ったのがペルセウスです。天馬ペガススに乗り、ティアマトを退治、見事アンドロメダを救出。それをきっかけに、二人は夫婦になりました。

相模原の歴史展示

昔のくらしの道具や出土した土器、植物や動物など相模原の自然、軍事施設の進出、団地の建設など、どのようにまちが発展してきたかなどさまざまな展示があり、相模原市の歴史について学ぶことができました。

クリーンセンター周辺に住む方々とバスで一緒に出かけ、学び合った楽しい1日となりました。

注3：秋の大四辺形 α星・β星・γ星・アンドロメダ座のα星からなる四角形は、ペガススの四辺形として知られる。また、北半球ではペガスス座が秋を代表する星座の1つであることから、「秋の(大)四辺形」ともいわれる。



相模原市立博物館 プラネタリウムや、旧石器時代からの相模原の郷土の歴史などの展示が見られる。



昔のかやぶき屋根の民家を再現した展示を見る参加者。



相模原では、畑や養蚕などの農業が営まれてきた。納屋に収納されていたさまざまな生活の道具。

エコプラザ(仮称)開設に向けて—周辺地域の歴史と想い

エコプラザ(仮称)の運営会議と連携会議

エコプラザ(仮称)検討市民会議の検討を受け、平成30年11月、市は「エコプラザ(仮称)の整備に向けた市の基本的な考え方」を策定、翌年3月管理運営方針を定めました。市民参加型施設として、市民の声を反映するため運営について協議し、評価・検証する「運営会議」と、市や市民団体・企業などと広く情報を共有し、具体的な内容を検討する「連携会議」が設置されました。連携会議で検討した内容は運営会議で協議されます。

クリーンセンター周辺住民代表が歴史と想いを語る

エコプラザ(仮称)は、旧クリーンセンターの建物を活用して「環境問題を市民みんなで話し合い、学び合い、考える施設」として、新しい環境に関する施設を目指し、運営協議会に参加する周辺住民を中心に、クリーンセンター建て替えと合わせ、8年以上検討を重ねてきました。

連携会議の参加者は、クリーンセンターや運営協議会を知らない人も少なくないことから、エコプラザ(仮

称)を検討していくうえで「クリーンセンターの歴史の共有が必要」という提案があり、10月10日の第4回連携会議で、周辺住民代表としてエコプラザ(仮称)検討市民会議などに参加した、村井寿夫・木村文・塩澤誠一郎の各氏がそれぞれの視点で講演しました。

最初に村井氏が「クリーンセンター建設に至るまでの背景と経緯」、次に木村氏が「施設の監視役である運営協議会とは何か、周辺住民はごみ処理施設建設をどのように受け入れ、見守り、活動してきたか」、最後に塩澤氏が「クリーンセンターの建て替えと施設・周辺整備協議会の経過」について語りました。

周辺住民には、クリーンセンターを通して築いてきたパートナーシップや、市民参加のあり方を次世代に継承したいという想いがあります。単なる環境施設ではないエコプラザ(仮称)をどう具体化していくのか、来年11月の開設に向けて、周辺地域住民はもとより、広く全市民(在勤・在学・NPOなどの団体・民間事業者を含む)が関心を寄せて、この会議を見守っていくことが望まれます。

クリーンセンター Q&A 不燃・粗大ごみ処理施設の火災事故を防ぐ対策

クリーンセンターでは、不燃・粗大ごみ処理施設で平成29年4月から、充電式小型家電(リチウムイオン電池内蔵)が原因と思われる火災事故が複数発生しています。ごみ総合対策課クリーンセンター係に火災防止対策を聞きました。

Q 不燃・粗大ごみは、どのように処理するのですか？

A 収集された不燃・粗大ごみは、破碎機で細かく砕かれ、鉄・アルミを選別回収し、その他は可燃ごみとともに混ぜて焼却処理しています。

Q なぜ火災事故が起きるのですか？

A 不燃・粗大ごみに、リチウムイオン電池が内蔵された小型家電が混入していることが原因と推測しています。それらを破碎するとリチウムイオン電池が発炎し、近くにある着火物(木製品、プラスチックなど)に引火してしまうためです。

Q 施設や収集での事故対策は？

A 施設では、昨年7月までに火災検知器及びスプリンクラーを増設し、監視カメラと作業員による目視に



よる監視を行っています。収集時には、作業員がすべての袋の中身を収集車の荷台で確認しています。また、一部の狭い地区からの収集分は、クリーンセンター施設内でごみを広げ、作業員が不適合物が混入していないか、一つひとつ確認しています。

Q 電池入り小型家電の処理はどうすれば？

A 電池は取り出し、「危険・有害ごみ」として指定の有害ごみ袋に入れて出すか、市内15カ所の公共施設(「ごみと資源の収集カレンダー」13ページに掲載)に設置された「小型家電回収の箱」に入れてください。有害ごみ袋は、コミュニティセンターなどで無料で配布しています。電池が取り出せない場合は、「有害ごみ」と書いた透明な袋に入れて出してください。収集物は作業員により、適正に分別処理を行います。